

株主の皆さまへ

第156期事業報告書

平成15年1月1日から平成15年12月31日まで



より魅力ある企業を目指し 挑戦を続けていきます



目次

特集ワイド版.....	2
トピックス	6
商品・サービスのご紹介	8
当期の業績	10
連結財務諸表	12
単体財務諸表	15
株式の状況	16
会社概要	17



株主の皆さまにおかれましては、
ますますご清栄のこととお慶び申し
上げます。

当社の株式は、2001年12月東京証券取引所市場第二部に上場し、2003年12月に同市場第一部銘柄に指定されました。これも、ひとえに株主の皆さまを始めとする関係各位のご理解とご支援の賜物であり、心よりお礼申し上げます。

当期は、年初から春先にかけての低気温や冷夏による影響、産業用大型物件の新規稼働などにより、ガス販売量は堅調に増加しました。また、近隣都市ガス事業者への卸供給も順調に伸び、当期の連結売上高は58,625百万円（前年比5.5%増）、連結純利益は3,941百万円（前年比39.3%増）を計上することができました。

こうした中で、当期末の配当は、普通配当3円に東証一部指定記念配当1円を加えた合計4円とさせていただきます。これにより、中間配当と合わせた当期の年間配当は7円となります。

今後も皆さまの信頼にお応えし、安全で環境にやさしく付加価値の高いサービスを提供する魅力ある企業となるよう挑戦を続けてまいります。何卒一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

代表取締役社長 大石 司朗

中長期ビジョン

環境にやさしい天然ガスの普及を促進し、自由化が進むエネルギー業界で勝ち抜くため、静岡ガスでは「中長期ビジョン」を策定し、社会への貢献と将来の成長を目指した経営を進めています。

中長期ビジョンは、ガス販売量の拡大とこれを支える基幹インフラの整備を大きな柱として、地球環境問題への対応と自由化市場で競合可能なコスト構造の実現を目指しています。

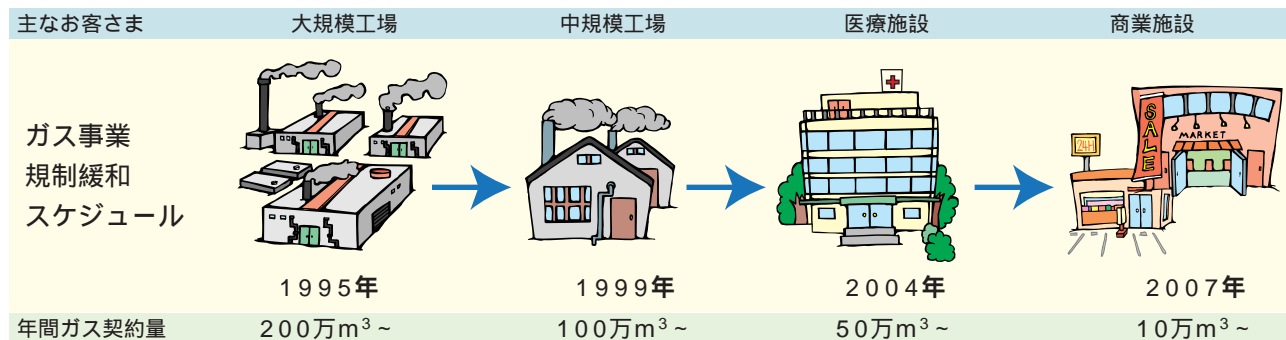
事業環境

～規制緩和で自由化市場が拡大。
その半面、競争も激化～

都市ガス業界では、1995年のガス事業法改正以来、規制緩和による自由化が進展しています。1995年のガス事業法改正では、大口(年間ガス使用量が200万 m^3 以上のお客さま)について、価格などの供給条件を個別契約により自由に決めることが認められました。そして、その

後のガス事業法改正により、大口の範囲は1999年に100万 m^3 以上、2004年4月に50万 m^3 以上となり、さらに2007年には10万 m^3 以上にまで拡大される予定です。

一方、電気事業においても自由化が加速しており、エネルギー業界は以前のような業種ごとの“棲み分け”の中に安住することが許されない、厳しい競争と選別の時代を迎えています。



当社の特長

～自由化市場での販売量拡大と 将来性のあるLNG受入基地～

自由化された大口分野におけるガス販売量の拡大

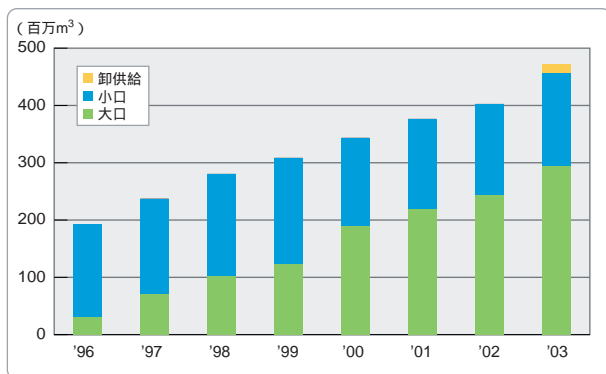
当社は、天然ガスによるコージェネレーションシステムの普及を中心に、自由化された大口需要を開拓し、ガス販売量を大きく伸ばしてきました。当社の昨年度ガス販売量は約4億7千万 m^3 で、LNG輸入を開始した1996年に比べ、約2.5倍に拡大しました。また、ガス販売量に占める大口需要の割合は60%を超えています。これは、当社の供給エリアである富士地区（富士市、富士宮市周辺）にエネルギー多消費型の工場が数多く立地していることや、ガスコージェネレーションシステムなどの普及により、多くの工場に天然ガスをご採用いただいた結果です。

大型LNG船が入港可能なLNG受入基地

当社の子会社である清水エル・エヌ・ジー(株)は、当社と東燃ゼネラル石油(株)の出資によるLNG受入基地運営会社で、清水港にある同社袖師基地は静岡県で唯一のLNG受入基地です。袖師基地の特徴は、大型LNG船^(注)の受け入れができることです。大型LNG船を受け入れているガス事業者は、当社と大手3社（東京ガス、大阪ガス、東邦ガス）です。これにより、当社は電力会社や大手都市ガス会社と同レベルの価格でLNGを受け入れることができます。また、将来のLNG取扱量増加に対し、栈橋などの基本インフラは現状のままで、タンクの増設など部分的な拡張を行うだけで対応できるため、さらに効率の良い設備運営が可能となります。

(注)天然ガスは、液化された状態（液化天然ガス=LNG）で海外から輸入されます。大型LNG船とは、電力会社や大手都市ガス会社向けに運転されている標準的なサイズのLNG船をいいます。

ガス販売量の推移（単体）



清水エル・エヌ・ジー袖師基地

中長期ビジョン

～ LNG100万トン体制の確立に向けて～

静岡ガスでは、自由化を勝ち抜く企業体質を構築するため、今後10年間でLNGの取扱量を100万トン(都市ガス換算で約12億 m^3)とすることを目指しています。これは、現在の販売量の約3倍に相当する量ですが、CO₂排出量削減効果の高い天然ガスは、今後も産業分野を中心に広く普及すると見込まれ、また環境にやさしい天然ガスの普及を通して社会に貢献することが、当社の使命と考えるからです。そして、大量のLNGを取り扱うことで、LNG受入基地やパイプラインの設備稼働率が向上し、ガス1 m^3 あたりのコストが大幅に下がるため、厳しい選別淘汰の時代にあっても十分競合可能なコスト構造ができるからです。

このため当社では、供給エリア内での大口産業用需要の新規開拓に加え、周辺ガス事業者への卸供給と広域バ

イブラインネットワークを通じた広域供給の拡大を進めていきます。また、こうした販売量の拡大を支えるガス供給インフラの整備を着実に進めています。

ガス販売量の拡大

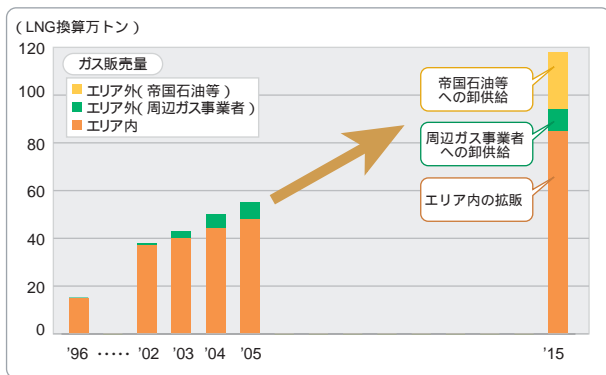
エリア内でのガス販売拡大

当社エリア内では、ガスコージェネレーションシステムによる大口産業用需要の獲得を引き続き進めていきます。当社のガス販売量のうち富士地区の占める割合は50%を超えています。しかしながら、富士地区のエネルギー消費に占める都市ガスシェアは15%程度で、まだ開拓の余地は十分あると認識しています。当社では富士地区の都市ガスシェアを現在の2倍から3倍程度まで高めることを中長期的な目標としています。

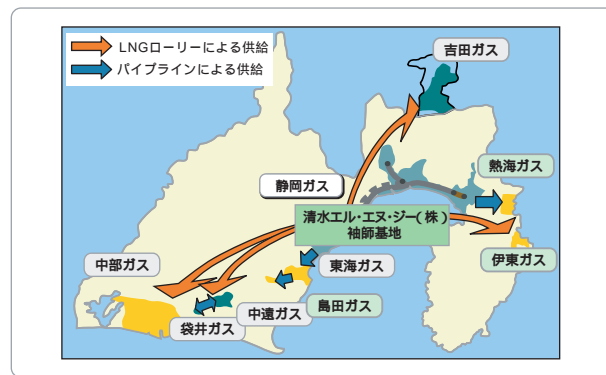
エリア外へのガス供給拡大

従来は、当社エリア内のみで行っていたガスの販売で

中長期ガス販売目標



卸供給の拡大



すが、今後はエリア外へのガス供給も拡大していきます。近隣都市ガス事業者向けの天然ガス卸供給が昨年より本格化し、今後も徐々に拡大していく計画です。近接する事業者にはパイプラインで天然ガスを供給し、遠隔地の事業者にはローリーでLNGを輸送しています。

また、帝国石油(株)、東京ガス(株)との3社連携パイプライン(南富士幹線)により、将来に向けて広域的なガスの供給が見込めることとなりました。帝国石油のパイプラインとは2006年末につながる予定で、LNG受入タンクの増設を予定している2009年までは、一時的に帝国石油から天然ガスを受け入れますが、その後は当社から帝国石油に天然ガスを供給する計画です。さらに、将来的には東京ガスともパイプラインを連結し、同社への供給も始まる予定です。

広域パイプライン構想の概要



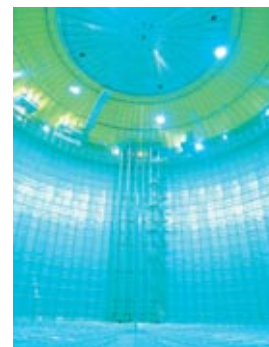
基幹インフラの整備

当社では、予想される販売量の増大に対応するため、基幹インフラの整備を精力的に進めています。富士地区を中心とする静岡県東部地区の需要を支える「第二駿河幹線」は、清水エル・エヌ・ジー(株)袖師基地(静岡市)と富士市を結ぶ高压パイプラインで、本年7月より供用開始予定です。さらに、広域パイプラインネットワーク構築に向けた「南富士幹線」も本年着工予定です。また、袖師基地ではこうした将来の天然ガス供給の増加に対応し、より多くのLNGを取り扱うことができるよう、LNGタンクの増設を計画しています。

当社では、地球環境に大きく貢献する天然ガスをより多くの皆さまにご使用いただき、LNG100万トン体制を実現させるため、その基盤となる供給インフラの整備を着実に進めています。



完成間近の第二駿河幹線



LNG地下タンク内部

当社研修センターがグッドデザイン賞を受賞

当社研修センターがこのほど、(財)日本産業デザイン振興会が主催する「2003年度グッドデザイン賞」^(注)(建築・環境デザイン部門)を受賞しました。同センターは最新の省エネ技術と優れた快適性の共存をコンセプトに、2002年11月に竣工。当社社員をはじめ、関係会社、協力工事会社、ガスショップ、指定工事店などの従業員を対象に、実践的な教育・訓練を実施しています。

主な受賞理由としては、天然ガスの高効率利用と自然エネルギーの活用をミックスしたハイブリッド(複合)型省エネルギーシステムと、その機能を追求するために生まれた斬新なデザインへの高い評価が挙げられます。表彰式は2003年10月に、東京で行われました。



南西から見た研修センター
周りに水路を配し省エネに利用している

清水エル・エヌ・ジー袖師基地見学者が1万人を突破

清水エル・エヌ・ジー袖師基地の見学者がこのほど1万人を突破しました。見学会は、基地の安全性や製造工程、天然ガスのクリーン性などを理解してもらうために、同基地がまだ建設途中だった1996年1月にスタート。見学者の層はさまざまですが、自治体関係者や需要家の皆さま、学習の一環として訪れる小中学生などが中心です。「安全への配慮が行き届いていた」「天然ガスへの理解が深まった」といった感想が寄せられています。

1万人を突破した2003年8月25日は、ちょうど清水エル・エヌ・ジーの会社創立記念日にあたり、その日基地を訪れた袖師地区子供会の35人と、記念の植樹が行われました。



(注) 1957年に通商産業省によって創立された「グッドデザイン商品選定制度」(通称Gマーク制度)を母体とする、国内で唯一の総合的デザイン評価・推奨制度

免震構造の新本社東館が完成 ~生産・供給・情報管理の拠点~

2003年12月、本社東館が静岡市八幡の本社敷地内に完成しました。鉄骨4階建て、延べ床面積は2,847m²。建物には、静岡ガスグループの基幹コンピュータが設置され、2004年7月には都市ガスの送出管理を行う最新の制御システムを設置する予定です。いわば「ガス事業の拠点となる建物」となることから、当社初の免震構造を採用しました。

東海地震クラスの大地震が発生した場合でも、揺れを減衰し、建物や内部の設備を安全に維持・稼働させることができます。また、建物内には災害対策本部を設置。非常災害時の中枢拠点として、指令機能の向上を図っています。



新本社東館



災害対策本部

クラシックのニューイヤーコンサートを開催

当社が特別協賛している「グランシップ&静岡ガス・ニューイヤーコンサート」が1月14日、静岡市で開催されました。2003年に引き続き指揮を執った堤俊作氏のほか、ヴァイオリンのピエール・トーゾ氏、ソプラノの佐々木典子氏、コンサートマスターに佐々木一樹氏といった一流のゲストを招きました。

静岡交響楽団の演奏で、ヴィヴァルディの「四季」などポピュラーな楽曲のほか、「デンマークのヨハン・シュトラウス」と呼ばれるロンビューの作品も披露しました。オーケストラと観客が一体となり、盛況のうちに幕を閉じました。



夢のマイホーム発電

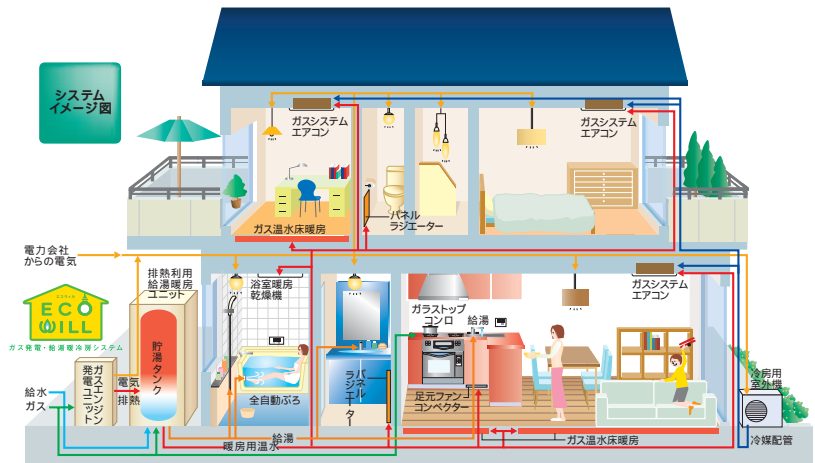


ガス発電・給湯暖冷房システム



床暖房

浴室暖房乾燥機



快適性

エコウィルは、給湯や暖房はもちろんのこと、ご家庭の電気までもまかなえる1台3役の、家庭用のガス発電・給湯暖冷房システムです。発電の際の排熱を有効に活用し、その熱をお台所やお風呂への給湯、さらには床暖房や浴室暖房乾燥機などの暖房に利用します。夢のマイホーム発電で広がる快適な生活を、エコウィル1台でまかなうことができます。

経済性

エコウィルで発電することにより、購入電力量が年間約30%削減され、電気代を大幅に節約できます。また、発電時の排熱も家中の給湯や暖房に有効利用できます。しかも、エコウィル専用の料金プラン「新世快」が利用できるので、光熱費が年間約43,000円も削減されます。

省エネルギー性

発電時に発生する熱を給湯や暖房に利用できるため、エネルギー利用率は85%と、従来の電気供給システムとの比較で2倍以上のエネルギー効率を実現しました。そのため、一次エネルギーの消費量を20%、地球温暖化の原因となるCO₂も約30%削減することに成功しました。

くらべれば、ガス

～エネルギーの上手な選び方～

ガス 衣類乾燥機

VS

電気 衣類乾燥機

Q

ガス衣類乾燥機のランニングコストは、電気式と比べてどれくらい違うの？

A

ガス衣類乾燥機のランニングコストは、電気式の約3分の2。とても経済的です。だから毎日使うほどに差がつかます。

洗濯物5kgの

乾燥にかかる費用

電気式の約 $\frac{2}{3}$

ガス式

電気式

乾燥時間

電気式の約 $\frac{1}{3}$

ガス式

約50分

電気式

約140分



リンナイ RDT-50S

パワフル&スピーディー

1回でシャツなら25枚分の洗濯物が、わずか50分のスピード乾燥！

ふっくら清潔

ほこりや花粉がつく心配がなく、雨でもふっくら乾燥！

カラッと快適

運転中の熱気とジメジメは、すべて屋外へ排出。お部屋はいつでもカラッと快適！

美しさと機能性を追求したガラストップコンロ

毎日使うからこそ、お手入れが簡単で、充実した便利・安心機能を備えたガラストップコンロをお薦めします。

洗練された次世代型ビルトインコンロ



ハーマン C3WA1PDT6S2

お手入れラクラクガラストップ



便利機能

おいしくご飯が炊ける自動炊飯機能
スイッチひとつの自動湯わかし機能
揚げ物温度自動調節機能

充実の便利・安心機能



安心機能

天ぷら油加熱防止機能
全口消し忘れ防止機能
グリル加熱防止機能
立ち消え安全機能

当期の業績

(金額は単位未満を切り捨てております)

2003年12月期連結決算

当連結会計年度の売上高は、2002年9月実施の当社ガス料金の引き下げによる影響がありましたが、家庭用や大口分野での販売量増加により前期に比べ5.5%増の58,625百万円、営業利益は、販売量の増加に加え、当社の天然ガス熱量変更作業が完了したことによる費用の減少により、8.8%増の7,012百万円と

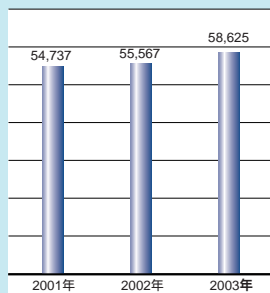
なりました。

また、経常利益は、有利子負債の返済により支払利息が減少し、12.0%増の6,113百万円、これに遊休地の売却益等の特別損益を加えた当期純利益は、39.3%増の3,941百万円となりました。

	2003年12月期	2002年12月期	増減率
売上高	586億円	555億円	+5.5%
営業利益	70億円	64億円	+8.8%
経常利益	61億円	54億円	+12.0%
当期純利益	39億円	28億円	+39.3%

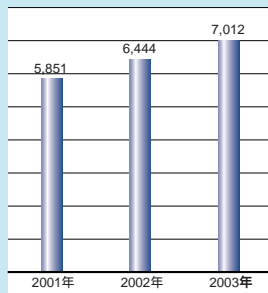
売上高

(単位:百万円)



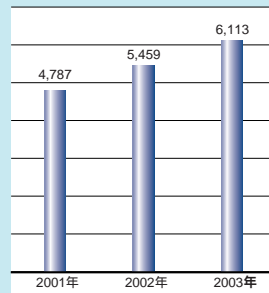
営業利益

(単位:百万円)



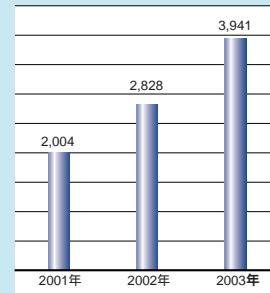
経常利益

(単位:百万円)



当期純利益

(単位:百万円)



各セグメントの業績

< ガス事業 >

お客さま数は、グループ全体で当期中に6,581戸増加し、総計は327,991戸となりました。ガス販売量は、家庭用がお客さま数の増加や冷夏などによる1戸あたりの平均使用量の増加、業務用がGHPによる新規空調需要の開拓や病院・老人保健施設などへのマイクロコージェネレーションシステムの導入、工業用が大型コージェネレーションシステムの新規稼働や中規模需要家の新規開拓により、それぞれ順調に増加しました。さらに、当期より他ガス事業者への卸供給が本格的に開始され、販売量全体では前期比15.8%増の483,456千m³となりました。ガス売上高は、同4.0%増の42,022百万円、営業利益は同13.7%増の9,575百万円となりました。

< 受注工事及びガス機器事業 >

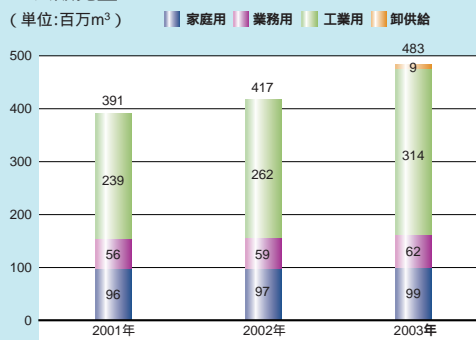
グループ外への機器販売は好調だったものの、セグメント間の取引高が減少した結果、売上高は前期比15.2%減の12,960百万円、営業利益は同30.4%減の534百万円となりました。

< その他の事業 >

LPG販売事業などで拡販に努めた結果、売上高は前期比9.6%増の14,354百万円となりました。しかし、原料価格の上昇やリース事業の不振などにより、営業利益は同30.1%減の367百万円となりました。

ガス販売量

(単位:百万m³)



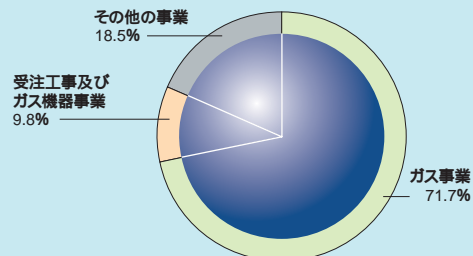
数値は、四捨五入により合計が合わない場合があります。

事業のセグメント

各セグメントに属する主要な事業内容は、以下のとおりです。

ガス事業	都市ガスの製造、供給、販売
受注工事及びガス機器事業	ガス工事の施工 ガス機器の販売
その他の事業	LPG及びLNGの販売 車両、事務機器等のリース 空調工事の施工 住宅設備機器の販売、施工 不動産の賃貸

セグメント別売上高構成比



(注) 売上高の構成比は、外部顧客に対する売上高に基づいております。

連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当期 (2003年12月31日現在)	前期 (2002年12月31日現在)
(資産の部)		
固定資産	94,041	90,267
1 有形固定資産	83,480	82,108
製造設備	29,505	32,206
供給設備	28,570	26,544
業務設備	4,534	4,146
附帯事業設備	6,951	7,143
建設仮勘定	13,917	12,066
無形固定資産	989	1,022
2 投資その他の資産	9,570	7,137
流動資産	14,655	14,578
現金及び預金	5,421	6,405
受取手形及び売掛金	4,935	4,561
たな卸資産	2,431	1,625
その他	1,867	1,985
繰延資産	1,050	366
資産合計	109,746	105,212

point 1 清水 - 富士間の輸送幹線「第二駿河幹線」(2004年6月完成予定)をはじめとする天然ガスパイプラインの拡充のための設備投資を行いました。

point 2 株価の回復により、保有株式の時価評価が好転しました。

(単位：百万円)

	当期 (2003年12月31日現在)	前期 (2002年12月31日現在)
(負債の部)		
固定負債	52,083	54,999
3 長期借入金	47,752	51,256
その他	4,331	3,742
流動負債	26,255	23,598
3 1年以内に期限到来の固定負債	12,514	12,959
買掛金	2,950	2,091
3 短期借入金	2,015	1,364
未払金	4,313	3,952
その他	4,461	3,230
引当金	914	971
負債合計	79,253	79,569
(少数株主持分)		
少数株主持分	3,186	2,732
(資本の部)		
資本金	4,183	4,183
資本剰余金	2,009	2,009
利益剰余金	18,661	15,202
其他有価証券評価差額金	2,458	1,520
自己株式	5	4
4 資本合計	27,307	22,910
負債、少数株主持分及び資本合計	109,746	105,212

point 3 有利子負債が3,298百万円減少しました。

point 4 株主資本が4,396百万円増加しました。

連結損益計算書

(単位：百万円)

	当期 (2003年 1月 1日- 2003年12月31日)	前期 (2002年 1月 1日- 2002年12月31日)
5 売上高	58,625	55,567
売上原価	30,331	27,567
売上総利益	28,294	28,000
供給販売費及び一般管理費	21,281	21,555
営業利益	7,012	6,444
営業外収益	371	356
営業外費用	1,270	1,341
経常利益	6,113	5,459
6 特別利益	1,059	860
特別損失	95	955
税金等調整前当期純利益	7,077	5,364
法人税、住民税及び事業税	2,867	2,014
法人税等調整額	326	10
少数株主利益	594	511
当期純利益	3,941	2,828

連結剰余金計算書

(単位：百万円)

	当期 (2003年 1月 1日- 2003年12月31日)	前期 (2002年 1月 1日- 2002年12月31日)
(資本剰余金の部)		
資本剰余金期首残高	2,009	2,009
資本剰余金期末残高	2,009	2,009
(利益剰余金の部)		
利益剰余金期首残高	15,202	12,886
利益剰余金増加高	3,941	2,828
当期純利益	3,941	2,828
利益剰余金減少高	481	512
配当金	424	459
役員賞与	57	53
利益剰余金期末残高	18,661	15,202

point 5 2002年9月実施のガス料金値下げによる減少を、販売量の増加などにより吸収しました。

point 6 土地の売却を行いました。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	当期 (2003年1月1日- 2003年12月31日)	前期 (2002年1月1日- 2002年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	7,077	5,364
減価償却費	9,500	9,300
繰延資産の償却費	342	149
有形固定資産除却損	329	846
投資有価証券評価損	1	434
退職給付引当金の増減 額	364	43
ガス熱量変更引当金の増減 額	57	88
受取利息及び受取配当金	78	98
支払利息	1,182	1,307
有形固定資産売却損益()	873	222
投資有価証券売却損益()	0	113
売上債権の増 減額	680	7
7 たな卸資産の増 減額	805	823
7 仕入債務の増減 額	789	227
未払消費税等の増減 額	233	976
その他	838	912
小計	17,695	17,752
利息及び配当金の受取額	82	101
利息の支払額	1,207	1,332
法人税等の支払額	2,000	2,274
営業活動によるキャッシュ・フロー合計	14,570	14,247

point 7 決算日直前にLNG船を受け入れたことにより増加しました。

(単位：百万円)

	当期 (2003年1月1日- 2003年12月31日)	前期 (2002年1月1日- 2002年12月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形・無形固定資産の取得による支出	11,249	11,934
有形・無形固定資産の売却による収入	1,006	263
投資有価証券の取得による支出	843	68
投資有価証券の売却等による収入	47	877
繰延資産の取得による支出	1,026	334
その他	422	749
8 投資活動によるキャッシュ・フロー合計	11,642	10,447
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減 額	651	740
長期借入れによる収入	9,334	10,070
長期借入金の返済による支出	13,283	13,305
配当金の支払額	423	458
少数株主への配当金の支払額	137	134
その他	1	3
9 財務活動によるキャッシュ・フロー合計	3,860	3,091
現金及び現金同等物の増減 額	931	708
現金及び現金同等物の期首残高	6,253	5,545
現金及び現金同等物の期末残高	5,321	6,253

point 8 今後の天然ガス拡販に向けて、「第二駿河幹線」をはじめとする設備投資を行いました。

point 9 営業活動によるキャッシュ・フローが増加したため金融機関からの借入が減少しました。

単体財務諸表

貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

	当期 (2003年12月31日現在)	前期 (2002年12月31日現在)
(資産の部)		
固定資産	60,717	54,590
有形固定資産	47,897	43,679
無形固定資産	776	805
投資その他の資産	12,044	10,106
流動資産	11,701	9,859
繰延資産	—	262
資産合計	72,418	64,713
(負債の部)		
固定負債	30,644	29,693
流動負債	20,180	16,502
負債合計	50,825	46,196
(資本の部)		
資本金	4,183	4,183
資本剰余金	2,009	2,009
利益剰余金	12,958	10,808
その他有価証券評価差額金	2,448	1,519
自己株式	5	4
資本合計	21,593	18,516
負債・資本合計	72,418	64,713

損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

	当期 (2003年1月1日- 2003年12月31日)	前期 (2002年1月1日- 2002年12月31日)
売上高	46,217	44,144
営業利益	2,964	2,302
経常利益	3,070	2,410
税引前当期純利益	3,842	2,545
当期純利益	2,608	1,711
前期繰越利益	504	521
当期末処分利益	3,056	2,024

利益処分

(単位:百万円)

	当期 (2003年1月1日- 2003年12月31日)	前期 (2002年1月1日- 2002年12月31日)
当期末処分利益	3,056	2,024
以下の通り処分いたしました。		
利益処分額	2,478	1,519
配当金	282	212
(1株につき普通配当3円、 記念配当1円)		(1株につき3円)
役員賞与金	37	34
特定資産圧縮積立金	79	113
別途積立金	2,080	1,160
次期繰越利益	577	504

2003年9月9日に212百万円(1株につき3円)の中間配当を実施いたしました。

株式の状況

(2003年12月31日現在)

会社が発行する株式の総数 240,000,000株

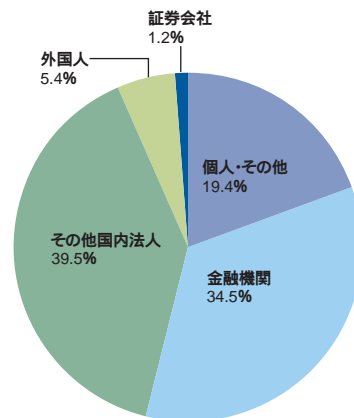
発行済株式の総数 70,692,950株

株主数 2,487名

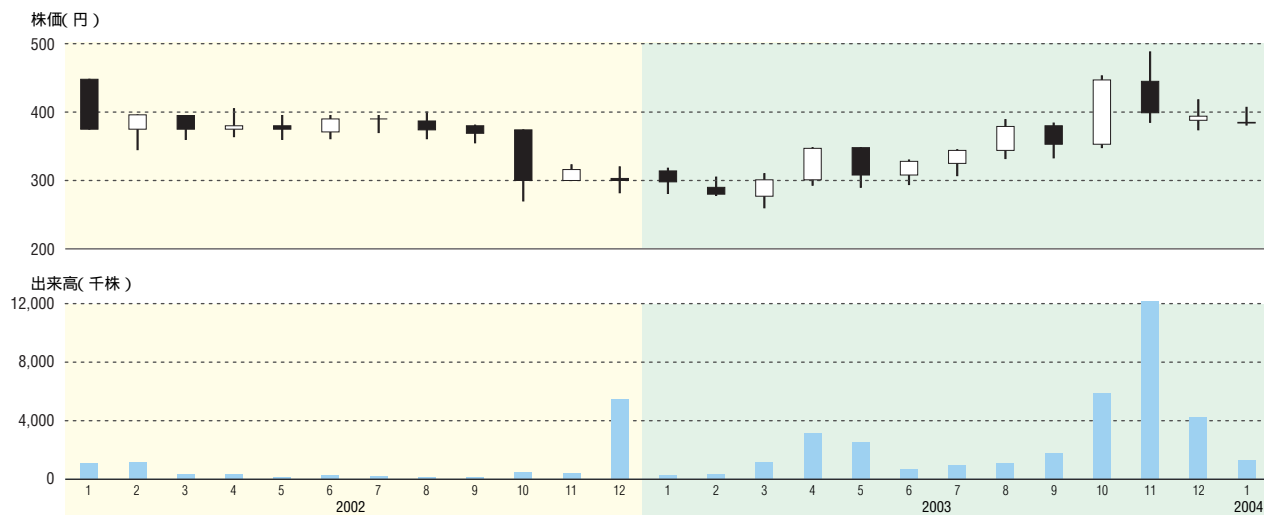
大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
第一生命保険相互会社	3,987	5.63
エスジー保険サービス株式会社	3,863	5.46
三菱商事株式会社	3,768	5.33
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,110	4.39
東京電力株式会社	3,000	4.24
東京瓦斯株式会社	3,000	4.24
みずほ信託退職給付信託みずほコーポレート銀行口再信託受託者資産管理サービス信託	2,820	3.98
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,694	3.81
株式会社静岡銀行	2,682	3.79
鈴与株式会社	2,543	3.59

所有者別株式分布状況



株価および出来高の推移



会社概要

(2003年12月31日現在)

会社名 静岡瓦斯株式会社
設立 1910年(明治43年)4月16日
資本金 4,183百万円
従業員数 単体：681名 連結：1,187名

事業所

本社 静岡市八幡1-5-38
静岡支店 静岡市八幡1-6-1
清水支店 静岡市清水江尻台町22-33
富士支店 富士市荒田島町10-52
沼津支店 沼津市西条町17-6
三島支店 三島市清住町2-8
吉原工場 富士市蓼原1146-1

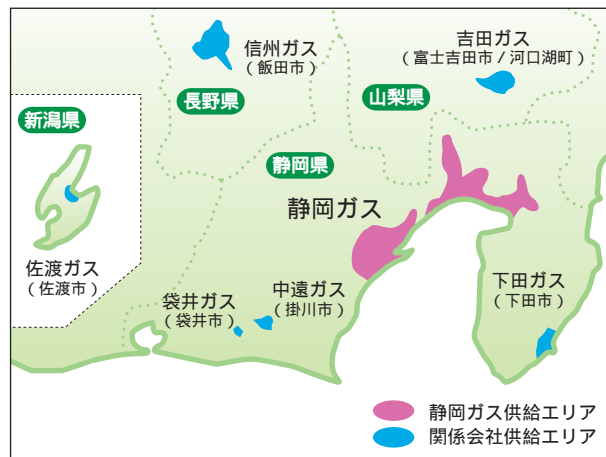
連結子会社

清水エル・エヌ・ジー(株) 静岡ガス・エンジニアリング(株)
吉田ガス(株) 静岡ガスエネルギー(株)
信州ガス(株) エスジークレジットサービス(株)
下田ガス(株) 静岡ガスリビング(株)
佐渡ガス(株) 静岡ガスサービス(株)
袋井ガス(株) 静岡ガス・システムソリューション(株)
中遠ガス(株)

役員(2004年3月30日現在)

代表取締役会長 大石 繁
代表取締役社長 大石 司朗
専務取締役 岩崎 清悟
常務取締役 上野 健二郎 石川 順哉
澤村 潔 浅井 一省
森田 和人
取締役 佐塚 一仁 宮坂 広志
曾根 真人 戸野谷 宏
杉山 寛 前野 克己
遠藤 正和 湯原 章郎
宮村 惣三郎 松浦 康男
常勤監査役 河合 静雄
監査役 加藤 明德 角谷 晃
野末 寿一

静岡ガスグループ 都市ガス供給エリア



株主メモ

決算期	毎年12月31日
定時株主総会	毎年3月
配当金受領株主 確定日	利益配当金 毎年12月31日 中間配当金 毎年6月30日
名義書換代理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 03-3323-7111
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
公告掲載新聞	日本経済新聞
決算公告掲載の ホームページアドレス	http://www.shizuokagas.co.jp/html/kabu/koukoku.html
1単元の株式数	1,000株
証券コード	9543

IR情報メール配信開始のお知らせ

株主・投資家の皆さまに対してe-メールによるIR情報配信サービスをスタートさせました。より迅速な情報の公開と経営の透明性の向上を図るためであり、ご登録いただいた方々に当社のWebサイト(<http://www.shizuokagas.co.jp/>)に新たな情報が掲載されたことをお知らせします。料金は一切かかりません。ご興味のある方は当社Webサイトにアクセスした後、「IR情報メール」配信のご登録はこちら”をクリックして、専用ページよりご登録ください。



静岡ガス株式会社

〒422-8688 静岡市八幡1-5-38
TEL 054-284-4141(代表)
<http://www.shizuokagas.co.jp/>

